

平成24年度温泉地学研究所研究成果発表会プログラム

日時:平成24年7月6日(金)13:00-16:30

会場:小田原合同庁舎 3階会議室D・E・F

発表時間	演題と概要	発表者
13:00 ~ 13:05	あいさつ	所長 吉田明夫
13:05 ~ 13:30	神奈川県およびその周辺地域における2011(平成23)年の地震活動 当所で行っている地震観測等の観測結果をもとに、2011年1月~12月までの神奈川県およびその周辺地域の地震活動について報告します。	伊東博、本多 亮、原田昌武、行竹洋平、板寺一洋、明田川保
13:30 ~ 13:55	東北地方太平洋沖地震によって誘発された箱根火山の地震活動 2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の直後から、箱根火山周辺で地震活動が活発化しました。この活動は、近年の箱根火山における(火山性の)群発地震活動とは様相が異なっていたことを報告します。	原田昌武、明田川保
13:55 ~ 14:20	2011年3月11日以後 ~地震活動はどう変わった~ 昨年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の後、日本列島の広い範囲で地震活動が活発化しました。福島県から茨城県にかけての沿岸域で特に顕著ですが、関東地方では、この活発化によってM7クラスの地震の発生確率が大きく高まったとも言われています。どのような考え方に基づいてそう推定されるのか、また、神奈川県西部地震など特定の地震についても同様に言えるのか等について、お話したいと思います。	吉田明夫
14:20 ~ 14:35	(休憩)	
14:35 ~ 15:00	富士火山・1707年宝永噴火の推移 —堆積物・古文書・噴煙物理に基づく復元 1707年宝永噴火は、富士山の長い歴史の中でも最大級の噴火で、神奈川県域を含む風下に甚大な被害を与えました。しかし、どのくらいの高さの噴煙が上がったのか、また噴火期間中に噴煙の高さがどのように変化したのか、などは詳しくわかっていませんでした。発表では、温泉地学研究所と日本大学の共同研究により、詳しく明らかになった宝永噴火の推移を紹介するとともに、どうしてそういう噴火が発生したのかを考えます。	萬年一剛
15:00 ~ 15:25	2001年以後に箱根火山大涌谷北側斜面に現れた噴気中のガス組成等の時間変化 箱根火山では、2001年に活動が活発化し、大涌谷北側斜面の数カ所において新たな噴気が出現しました。これらのなかには、標高付近の水の沸点とほぼ同じ約96℃のガスを放出する噴気孔も認められました。この噴気孔から放出されるガスには、火山性ガスである硫化水素も含まれており、時間の経過とともに濃度が増加する傾向が確認されています。ここでは、この噴気孔について硫化水素濃度などのガス組成等を継続的に観測した結果について報告します。	代田寧
15:25 ~ 15:40	(休憩)	
15:40 ~ 16:05	箱根カルデラ内に湧出する温泉水中の炭酸成分の起源 従来の箱根温泉成因モデル(大木・平野モデル)において、第II帯の温泉水中の炭酸成分(DIC)は、地層中の有機物が起源であると説明されてきました。しかし、今回箱根カルデラ内に湧出する温泉水の炭素同位体比($\delta^{13}C$ 値)を用いて検討した結果、第II帯における温泉水中のDICには、有機物よりも火山性炭酸ガス(CO ₂)が高い割合で寄与していることがわかりました。	鈴木秀和、代田 寧、板寺一洋、菊川城司
16:05 ~ 16:30	足柄平野における自噴井について 足柄平野の中部~下部には沢山の自噴井があり、県内最大の自噴地域として知られています。足柄平野の自噴井から一年間に湧き出る地下水の量は、全体で約849万トンと推定されており、これは足柄平野で水道水として揚水している地下水の約7割にあたる量となっています。しかし自噴井の数は、500本とも1,000本とも言われており、はっきりとは分かっていません。そこで、温泉地学研究所では、平成23年度に自噴井の実態調査を行いましたので、その結果をご報告します。	宮下雄次